

かがわ生涯スポーツフォーラム2008開催
 平成20年1月19日 丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス

基調講演

「これからのスポーツのあり方について」

～ 総合型地域スポーツクラブの取材を通して～

テレビ朝日アナウンサー 宮嶋 泰子



夏・冬のオリンピックの取材を13回おこなう中で、感じたことは、オリンピックに出場する日本代表選手はごく僅かであり、それを支えていたのは、学校体育と企業スポーツであったが、時代の変化から、それが崩れた！

これから求められるスポーツとは？

現在スポーツがおかれている社会環境は！！



日本社会の2極化 「勝ち組」「負け組」があらわれた。

コミュニティーの崩壊

大家族制から核家族制 個人中心主義

「スポーツを通じた地域コミュニティーの再生がさげられるようになった」

こととあわせて、

「空前の健康ブーム」

「医療費削減の必要性」

「高齢者社会の対応 ぴんぴんころり 元気で活躍しコロと死をむかえる」

ことも、現在のスポーツの効果として求められるようになった。

一方、私たちの生活環境は

「自己家畜化」を進めている 危険である！！

家畜とは「野生から切り離されて型や習性を変えられた動物」のことであり、
 私たちが住む環境を考えると、人間も同様であり、「自己家畜化」と考えられる。

たとえば、

家 畜	人間に置き換えれば
人工環境のもとにいる	都市の人工環境化
食料が自動的に供給	短時間で食料購入・クイッククッキング
自然の驚異から遠ざかる	自然の驚異から身を守る
品種改良	優生学
繁殖の管理	人工授精・体外受精
身体的変化	巻き爪
死のコントロール	安楽死

と置き換えられる。

「自己家畜化」による影響

代表的なものに「歯」がある。

食事の変化により(食べやすいもの=柔らかいもの)子どもの歯と口に何が起
こったか!! 虫歯は減少した(教育効果等)ものの、歯並びに問題を抱える
子どもが増加した 原因は、柔らかい食事によるあごの発達不良である。

他にも「自己家畜化」には多くの影響がある。

- ・運動能力の低下 エレベーターや車の利用
- ・免疫力の低下 抗生物質の多用
- ・成人病 食生活
- ・うつ病、アルコール依存症 ストレス
- ・子どもの体力低下
- ・キレル子どもの増加

運動やスポーツの持つ可能性

<p>ビデオ 今、運動保育が注目を集めている。 「握り間違いの測定」は、35年前は小学校2年生頃が中心であったが、現在は小学校6年生が多い結果となっているが、3歳から8歳頃に運動をすることにより、「脳の46野」(=抑制機能をもつ=キレル子どもとの関係も)が活性化され、低学年の行動にも落ち着きが生まれ、「握り間違い測定」の結果にも幼少期に積極的に運動をした子どもに優位性が認められる。子どもの脳の発達は運動と大きく関係している。……「人間の最初の他者は自分の身体である」</p>	<p>握り間違いの測定 GONOGO 測定とも言う ・赤ランプだとゴム球を握り、黄ランプだと握るのを我慢する。</p>
---	---

人間の野生を取り戻すためにもスポーツは必要

子どもの脳と運動の関係

医療と福祉とスポーツの融合

健康なお年寄りの増加、医療費の削減(例・長野県東御市 旧北御牧村)

スポーツの本質とスポーツに期待される効果

<p>スライド NPO法人バレーボール・モンリオール会 ネパール・ダマク難民キャンプ支援プロジェクト同行 ネパール・ダマク難民キャンプにおけるバレーボール(ソフトバレー・バレー)の活動支援をとおして、多くの子どもたちや若者が、生き生きと活動し、また、多くの感謝の言葉が送られた。 人間が人間らしく生きるために「スポーツ」が必要であると再認識した。</p>
--

人間は遊ぶ(プレイ)ことが本質であり、スポーツの本質は、なさねばならないことから、離れることである。

遊び(プレイ)は文化としての一面も持ち、京都・高山寺に所蔵されている鳥獣戯画の内容には、スポーツを楽しんでいるようにも観ることができる。

「人間文化はプレイの中にプレイとして発生し発展してきた」

ヨハン・ホイジンガーの言葉

スポーツは人間として必要であると捉えられる。

そして、「自己家畜化」が進む中で、スポーツの必要性を再認識してほしい。

スポーツは人として欠かせないものであり、「子どもの体力向上」「医療費削減」「日常スポーツに縁のない人」「スポーツ好きの人」のために必要なのが総合型地域スポーツクラブである!!

多くの人たちを引き付けるクラブの実践例（クラブ会員獲得のため）

岩手・北上市 フォルダ……インドカレー教室・会員証による商店の割引

大阪・しまもとバンブークラブ……世界の料理教室

広島・どんぐりクラブ屋台村……体育館のピロティに漫画本を用意

指導者については、体育大学や教育大学出身者の掘り起こしや、団魂世代の活用も考えられる。

財源確保には、NPO法人を取得し指定管理者制度に参加したり、地元企業の協力を得るなどの方法もある。

なぜスポーツクラブが必要なのか？

スポーツは人間が人間であるための文化である

コミュニティが崩壊している今、何かが一緒にできる場所

自己家畜化によって退化している子どもに、遊びの環境を与えられる

シンポジウム

「子どもの可能性とスポーツの可能性

～夢を広げる総合型地域スポーツクラブ～」

コーディネーター	テレビ朝日アナウンサー	宮嶋 泰子
シンポジスト	香川短期大学教授兼 NPO 法人 ELF 丸亀理事長	齊藤 栄嗣
シンポジスト	綾川町立昭和小学校教諭	稲澤すみ子
シンポジスト	小豆島町教育委員会社会教育課主査	相原 隆幸

齊藤 栄嗣氏……芝生化へのチャレンジ
子どもたちの体力不足が深刻な問題

香川県の子どもたちは全国平均から下回っている。丸亀市某小学校の怪我の種類で最も多いのは骨折であり、驚かされた。また、すぐにしゃがみ込む子どもや、バランス感覚や反射神経が身についていないようにも思われる。体力不足を解消する方法として、思いっきり体を動かすことの出来る活動場所の芝生化が考えられる。また、昨年4月には丸亀において全国芝生サミットを開催し、県内外から注目も集めた。



昨年5月には善通寺市内の保育園において園庭の芝生化

子どもたちが裸足で走ったり寝ころがったりできる、緑のじゅうたんを目指し園庭の芝生化に取り組んだ。夏には、芝生化された園庭において素足でボディペインティングを楽しんだり、10月には運動会を初めて芝生の上でおこなった。子どもたちが、思い切って体を動かせることができるだけでなく、保育士にとっても、園庭が安全な場所として、安心感もあるようである。

また芝生環境は **スポーツ・教育・コミュニティの原点。**

自然に子どもの体と心にゆとりを作ってくれる。

美しい景観と温暖化問題にも効果がある。 と考える。

芝生化の課題としてよく議論されるのが、経費だが、実際は安価である。

稲澤すみ子氏……子どもの現状

～小学校の教員及び少年団員保護者として～

香川の子どもの体格と体力

親の世代である、30年前の子どもの身長・体重と今の子どもの身長・体重では、どちらも今の子どもの値が上回っている。

過去20年間の体力テストの推移を見ても、全国的に体力低下は顕著であり、あわせて新体力テストの全国平均と香川の比較では、小学校低学年でほとんどの項目で全国平均を下回っていた。

「体格はよくなっているが、体力は低下する子どもたち」

運動する時間・空間・仲間の変化

小学校における体育の授業時数は週2.5時間

休み時間もゆっくり遊ぶことができない状況 委員会・学級活動や移動教室
子どもの安全確保の関係から集団下校・一斉下校の実施 放課後遊びの減少

「運動をしたくてもできない子ども、運動をしたくない子ども」

小学校における運動をする環境づくり（実践）

時期にあったスポーツや遊びを、カードなどにより目標を持たせている。

アスリートクラブ（3種目）を実施 保護者の協力（迎えが必要）

少年団員保護者として

中学校での部活動ではそれまでのスポーツ経験の有無が大きく、好成績を収める子どもはジュニアからの経験者が多い。また、子どもが一生懸命取り組むことには親も協力したい。しかし、一方で下校してからの時間が拘束されるため、睡眠時間の確保や発達途中にある怪我、学校の活動との関わりなどに問題が生じる場合がある。

子どもを取り巻く環境の変化から、運動をしない、できない子どもが現れている。私自身日ごろから、体験しないと何も語れないと感じており、体験するから「おもしろい」「おもしろくない」と感想を持つ。この体験をさせることも大人の役割であり、これからも学校現場や地域の中で、「運動がすき」と言える子どもが増えるように実践したい。

相原 隆幸……総合型地域スポーツクラブの設立へ

小豆島町総合計画スポーツレクリエーションの促進における主要施策は、各年代層・世代間交流によるイベント、体験教室の開催、自主的なクラブ・サークル活動の支援、ウォーキングやニュースポーツなど健康づくりの機会の提供であり、行政として総合型クラブ設立に携わろうとしたきっかけは、旧内海町、池田町の住民の融和・オリーブ植栽100周年・少子化の歯止めである。特に少子化の歯止めは、若者が出会う機会が少ないこともあり、クラブが出会いの場になることにも期待している。

クラブの母体

B & Gで活動をしているレディーススイミングの参加者を組織化していきたい。

（理由）活動拠点であるB & Gを使用・年齢層が幅広い・健康志向が強い

進捗状況

説明会の開催・事業企画委員の選出・種目や文化活動の検討・クラブ名
クラブの魅力「みんなが主役！」魅力溢れるクラブをめざして……

いつでも…活動拠点は「賑わいの場」

誰でも…町民の誰もが集う「仲間づくりの場」

気軽に…誰もが参加できる「健康づくりの場」 にしたい。

クラブの秘めた可能性

「愛郷心の育成」「子どもの健全育成」「地域コミュニティーの形成」であり

『みんなが主役となる』と思い、現在取り組んでいる。

宮嶋 校庭の芝生化について、どう思いますか？

(稲澤) 直島に勤務したが、そのときは芝生であったが、現在の学校を考えると本当にできるのかと思う。

(齊藤) 芝は自分たちで植え、自分たちで管理すれば、経費はかからない。また、芝生でなくても草でもよい、絨毯と考えれば子どもたちの怪我防止に効果がある。また、芝生化は自分たちですることにより、新しいコミュニティーが生まれる。

(相原) 小豆島町内の小学校はすべて土の運動場である。しかし、自分の子どもが初めて自転車に乗れたのは芝生の上で練習した時で、子どもは転んでも痛くないと思っていたので、自転車に乗れるようになったと思う。

宮嶋 ニール・スミスさんが、日本のラグビーが弱いのは、芝生でないグラウンドで練習をするため、倒れ込みながらパスを出す時、地面を見てしまう癖があり、それで動作が遅れたりするのが原因であるとも言っていた。

宮嶋 なぜ総合型で芝生化を取り入れるのですか？

(齊藤) 総合型クラブがなぜ芝生化を取り入れているかは、異世代の交流を考えると、活動の場として芝生が必要と考える。

(稲澤) 子どもたちが外で活動をしていることは、とても嬉しい。何をするにしても、外の活動は気持ちの良いものです。

宮嶋 自然天候の中で競技すること、から生まれた競技スポーツもたくさんあります、駅伝もそうでしょう。本来、人間は外で運動するほうがいいんだろうなと思います。

宮嶋 まず、齊藤先生が本日、芝生化の事例を選んでいただいたこと、この芝生化によって、稲澤さんが挙げた子どもの体力低下などの問題も、芝生化は遊ぶ環境づくりに結びつき、それを実現するのは行政だと思います。ここにいる行政関係の方や指導者の方もそのような方向があればいいなと思っていただければ、相原さんの夢が実現すると思います。